

外 国 語

英 語（リーディング）

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和4年度大学入学共通テスト（以下「本テスト」という。）の「英語（リーディング）」の受験者は、本試験と追・再試験を合わせて482,695人で、受験者全体の約98.8%に当たる。

本テストの問題作成方針としては、平成21年告示高等学校学習指導要領の中で、外国語の語彙や表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、これらの知識が活用できるかを評価するとしている。また、様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとしている。

これらのことを踏まえ、本テストの問題について、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

また、評価・分析するに当たり、以下の6つの資料を主に参考とした。

- (1) 高等学校学習指導要領解説（平成21年告示）外国語編・英語編
- (2) 令和4年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
- (3) 「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」の検定教科書
- (4) 令和3年度大学入学共通テスト「英語（リーディング）」（共通テスト(1)）
- (5) 令和3年度大学入学共通テスト問題評価・分析委員会報告書（共通テスト(1)）
- (6) 令和4年度大学入学共通テスト「英語（リーディング）」（本試験）

2 内 容・範 囲

本テストは、受験者が高等学校での外国語の授業（「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」等）で学ぶ内容・範囲を網羅しており、高等学校段階での「読むこと」の領域の学習成果を測るものとしておおむね適切であった。日常的な話題から社会的な話題、アカデミックな内容まで幅広く扱われており、場面や状況も受験者が日常生活や日々の授業で経験する（または、大学で経験する可能性のある）ものに設定されていて、受験者になじみのあるものである。学習指導要領で求められる、「主体的・対話的で深い学び」を経験してきた受験者が、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識を基に、目的に応じて英文を読み、思考力・判断力・表現力等を発揮しながら概要や要点を捉えたり話の流れを整理したりする必要のある内容となっている。

第1問A メールよりも短いSNSでのメッセージでのやり取りにおいて、発信者の持つ意図を把握する力が問われている。

第1問B 広告に掲載された情報のスキミングが求められている。見出しを手掛かりとして情報を探することは、実際のコミュニケーションの場面に即している。

第2問A 複数の情報から、条件に合ったプランを選んだり、参考になる情報を読みとったりすることが求められている。一つのテキスト素材の中に、ホテルとその利用者という、異なる情

報の発信の主体が配置されており、読み手側の目的に合った発信者の情報を探す力を測っている。

第2問B ディベートの準備をするという設定において、因果関係に注意しながら、肯定と否定の論拠を読み取ることが求められる。読み取った内容を端的にまとめて、ディベートの形式で発信するという目的に基づいた設問構成である。

第3問A ブログの英文と図表から、必要な情報を読み取る力を問う問題である。ブログ中の記述とカレンダーの資料を結び付けて、条件に合う日を選ぶ設問は、自分の行動を決定するために情報を正しく読み取るという、自然なコミュニケーションの場面を想定したものである。

第3問B 保護犬の施設を紹介する記事には、記事を書いた時点、取材した時点に加え、取材対象施設が経験した出来事が、読み物として魅力的・効果的な順番で記載されているが、それらを時系列に整理し直すという読み手のスキルを測る問題として適切である。

第4問 立場の異なる二人の書き手が示す意向や条件を適切に読み取り、メールのやり取りによって行われる交渉の結果を、スケジュール表に再構成する力を測る問題である。

第5問 伝記的テキストを題材とし、プレゼンテーションスライドを用いた情報発信を目的として、読み取った情報を整理する力を測っている。

第6問A 人間の記憶の脆弱性に注目した研究論文を読み、ワークシートに要点をまとめていく場面が設定されている。録音したインタビューを書き起こした内容が本文の中に埋め込まれた構成で、受験者にはなじみのないものであるかもしれないが、これから受験者が大学で触れるであろうアカデミックなテキストタイプを素材としたことは興味深く、評価できる。

第6問B 読み取った内容を基に、プレゼンテーションポスターを作製するという場面が設定されている。情報を効果的に発信するために、伝えたいポイントをまとめることを想定した設問構成である。簡単な計算を必要とする設問が含まれるが、これは、思考力・判断力・表現力等を発揮して、得た知識を再構成する力を測る設問として適切なものである。

3 分量・程度

問題作成方針に示された、「様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする」試験となるよう、全体的に「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」の検定教科書内で用いられる英文の分量と同程度の問題文を扱っている。英文自体は、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識があれば読みやすいものであるが、限られた時間内で詳細な読み取りが求められ、やや難易度が上がっている設問もある。全体的には大問ごとに段階的な難易度の設定がなされ、幅広い受験者に対応する難易度の問題がバランスよく配置されている。

第1問A 約180語で2つの設問。やり取りされるメッセージの流れを理解する平易な問題である。

第1問B 約220語で3つの設問。表にまとめられている情報を把握する平易な問題である。英文の量や情報量は、広告というフォーマットとして適切である。

第2問A 約290語で5つの設問。観光地情報にしては文字情報が多い印象がある上、リード文だけで約50語あり、設問内容を鑑みるとリード文の精選の必要を感じる。設問で求められている内容に応じて大意の把握と詳細な情報の把握が必要となるが、難易度はやや易しい問題である。

第2問B 約250語で5つの設問。文章および問題がディベートでよく論じられる順番で構成されており、受験者にはなじみがある。問題と選択肢の意味を正確に理解することが求められるが、全体としては標準的な問題である。

- 第3問A 約200語で2つの設問。問2は、本文とカレンダーの情報を統合して正答を選ぶ問題であるが、それほど複雑ではない。分量は2つの設問として適切で、難易度は標準的である。
- 第3問B 約310語に3つの設問。分量も英文自体の難易度も標準的であるが、出来事を時系列に並べ替える問題は、年号等を手掛かりにして情報を整理することが必要であり、やや難問である。
- 第4問 約540語で5つの設問。メールのやり取りの内容とメモを読む問題であるが、双方の内容を理解したうえで解答する工夫がされている良問である。英文自体はとて読みやすく、全体的にやや易しい問題である。
- 第5問 約660語に5つの設問。英文の量と文章自体の難易度は標準的であるが、限られた時間で各スライドの内容を理解し、本文の情報を基にプレゼンテーション用スライドを完成させる選択肢を選ぶ必要があるため、解答に苦勞した受験者もいたと思われる。出来事を時系列に並べる設問は、ダミーの選択肢も含まれており難易度は高い。
- 第6問A 約800語で4つの設問。英文自体の分量と難易度は標準的であるが、実験時に行ったインタビューのトランスクリプトを頼りに記事の趣旨を正しく理解する必要がある。各問題の選択肢も比較的長く、全体的にはやや難しい問題である。
- 第6問B 約700語で4つの設問。英文の量と難易度は標準的であるが、詳細な理解が求められる設問もあり、限られた時間内に全ての設問に解答することを考慮すると、問題全体の難易度はやや難しいと思われる。特に問3は、本文とグラフの項目の並びを理解できれば解答できるが、時間的な余裕のない状況では本文に記されている数的情報とグラフの特徴を整理し、把握するのは難しく、難易度は高い。

4 表現・形式

グローバル社会でのコミュニケーションを想定し、イギリス英語による表記や英語を母国語としない国や地域の話題を含めながら、高等学校の学習の過程を意識した適切な場面設定がなされている。文章表現は、学習指導要領に示された範囲内で、それぞれの設定に応じた適切なものとなっている。設問には受験者自身を“*You*”と表記するなど、コミュニケーションの当事者としての立場が明確にされており、知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できるかを問う問題となっている。また、図や表は、本文や資料の中でおおむね効果的に使用されている。

- 第1問A カナダの高校留学中に、放課後のボランティア活動についてクラスメートとSNSでやり取りをしている場面設定。相手のメッセージにどう返信するかを問う問題もあり、授業で大切にしているコミュニケーション活動が反映されている。実際のSNS上で一般的に書かれる英文よりも長めの印象を受ける。
- 第1問B 留学に興味のある高校生として、アメリカでの留学や仕事情報が得られるオンラインイベントの広告を見ている場面設定。広告上の表現が、選択肢では簡単なものに言い換えられる工夫がなされている。
- 第2問A イギリス留学中に、ホストファミリーと週末に遠出することになり、滞在を予定しているホテルの観光地紹介と口コミ情報を見ている場面設定。centreなどのイギリス英語が使用され、場面設定に適した表記となっている。観光地紹介としては、絵や写真がなく、文字情報が多い印象はある。
- 第2問B 英語の先生からもらった記事を読んで、クラスディベートの準備をする場面設定。記事の構成も分かりやすく、高校生向けの素材として適切なものとなっている。授業における言語活動のプロセスが問題として設定されており、受験者にもなじみがあると思われる。

第3問A 英語の先生によって書かれた博覧会についてのブログを読んで、参加するワークショップを考える場面設定。コミュニケーションの当事者を意識した場面設定がなされている。colourなど書き手がイギリス人であることが表記に反映されている。

第3問B イギリスの友達が見せてくれた保護犬の施設についての紹介記事を読んでいる場面設定。イギリスでの記事という設定を受けて、behaviourなどのイギリス英語の表記が使用されている。記事は、スピーチ文等を書く際にも応用できるような魅力的な文章構成となっている。

第4問 ホームステイに来る学生とのメールでのやり取りを読み、ホームステイ中の予定を表にまとめている場面設定。2つの情報を整理して1つの表にまとめるという実際に体験し得る場面設定で、知りたい内容が設問となっている点も評価できる。問題文は、必要な情報についてメール形式で表現する際の参考にもなる。

第5問 夏期プログラムの奨学金の選考要件となるプレゼンテーション準備のため、偉人についての記事を基に、その人を紹介するスライドを作成している場面設定。プレゼンテーションの目的が明確で、英文を読む必然性のある場面設定がなされている。スライドの構成は、記事を再構成する際の参考にもなるが、スライド内のデザイン等については、より実際のスライドを想定したものにするとさらによいと思われる。

第6問A 記憶の曖昧さに関する研究論文について、探究グループ内で報告するための要約メモを作成している場面設定。高等学校で実際に行うグループでの探究活動が反映された出題となっている。問題文は、実験インタビューを基にした研究論文風のものであり、アカデミックな内容であるところも興味深い。要約メモは、項目の立て方や大事なポイントのまとめ方などを授業で指導する際の参考にもなる。

第6問B 長さの単位の歴史についての文章を基に、プレゼンテーションコンテストで用いるポスター原稿をグループで作成している場面設定。英語の授業等での言語活動を想起させる設定となっている。ポスターに入れる文言やグラフを選ぶ設問となっているが、グラフについてはその作成意図が明示的に理解しやすいものとなる工夫も必要と思われる。

5 ま と め（総括的な評価）

全体として、共通テスト問題作成方針に則し、グローバル社会で活躍する人材の育成を目指した英語教育改革の方向性を反映しており、外国語の語彙や表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて活用できるかを評価するテストとして適切であったといえる。様々なテキストから概要や要点を把握したり、必要な情報を読み取ったりする問題に加え、推測したり事実と意見を区別して理解したりする問題、視覚情報を参考にして概要や展開を把握する問題、視点の異なる複数の情報から論理の展開や書き手の意図を把握する問題、情報を適切に整理したり要約したりする問題など、英語を実際に使う場面により近い設定において、発展的に思考して判断する力を問う問題となっている。

学習指導要領で目指す思考力・判断力・表現力等を育成するために、日々の授業において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などをどのように設定して言語活動を行えばよいかの具体的な例が、本テストの中で示されているように感じられ、授業に与える影響は大きい。特に、第5問や第6問では、授業でプレゼンテーションを行う際に、情報をどのようにスライドやメモ、またポスターにまとめたらいいかのひとつのモデルが示されており、授業づくりの参考になる。

題材としては、課外活動、昼休みの時間帯、留学といった受験者にとって身近なものから、文化による長さの単位の違いや記憶の脆弱性といった社会的・科学的なものまで幅広い内容が取り扱われており、メールやウェブサイト、ブログなど「本物らしさ」を意識した素材から得られた情報に

基づき、問題が作成されている。このことは、高等学校における教科横断的な学びや課題探究型学習が反映されているだけでなく、教科の本質に照らし、英語を読む必然性のある形で出題されているといえる。また、場面設定に応じてイギリス英語の表記が使用されていることも、コミュニケーションの手段として世界で広く使われている英語の多様性を表しているといえよう。これらのことから、本テストは本試験と同様に、高校での学びに配慮し、大学入学者選抜の資料となるための問題作成の工夫が十分になされたものと評価できる。

この2年間の学校現場は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、生徒の学びを保障しようと奮闘する日々であった。特に、実際の言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す英語教育においては、対面による直接のやり取りができない厳しい状況下でも、学習指導要領が目指す意味のあるやり取りによる学びを工夫し続け、コミュニケーションできる喜びをかみしめた2年間でもあった。新学習指導要領の実施を目前に控え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められているが、どのように困難な状況であっても、他者とのコミュニケーションを大切にしながら、協働して乗り越えていける力を、英語教育の中でも育てていきたい。そのような意味においても、本テストが英語を読んで、情報を整理しながら理解する力を測るものであると同時に、学習指導要領で示される知識・技能が、実際のコミュニケーションの場面において、生きて働くものとなっているかをより適切に測るものとなることを期待する。そして、学校現場で大切にしている意味のあるやり取りからうまれる真に深い学びの成果を測るものとなることを願う。

問題 番号	出題内容			設問数		配点		
	中間	解答番号	出題内容			1問当たり の配点	配点	
第1問	A	1-2	情報の読み取り	2	5	2	4	10
	B	3-5	情報の読み取り	3		2	6	
第2問	A	6-10	情報の整理	5	10	2	10	20
	B	11-15	要点の把握	5		2	10	
第3問	A	16-17	要点の把握	2	5	3*	6	15
	B	18-21	時系列での内容把握	1		3*	3*	
		22-23	要点の把握	2		3	6	
第4問		24-26	意図の読み取り	3	5	3	9	16
		27-28	条件に基づく情報の読み取り	1		2+2	4	
		29	要点の把握	1		1	3	
第5問		30	伝記の概要の理解	1	5	3	3	15
		31	伝記の要点把握	1		3	3	
		32-35	伝記の展開把握	1		3*	3*	
		36	伝記の要点把握	1		3	3	
		37-38	伝記の全体理解	1		3*	3*	
第6問	A	39-40	要点の把握	2	4	3	6	24
		41-43	内容の論理的理解	2		3	6	
	B	44	情報の要約	1	4	3	3	
		45-46	正確な内容理解	1		3*	3*	
		47-48	詳細な情報の読み取り	2		3	6	
合 計				38	平均点	55.20/100		

*は、全部正解の場合のみ点が与えられる。